

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

病害虫発生予察注意報の発令について（送付）
このことについて、発生予察注意報第2号を発令したので送付します。

注 意 報

平成15年度病害虫発生予察注意報第2号

平成15年7月2日
熊本県病害虫防除所長

農作物名 早期水稲

病害虫名 斑点米カメムシ類

（クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、アカスジカスミカメ、シラホシカメムシ、ミナミアオカメムシ）

1 予報内容

- （1）発生地域 早期水稲栽培地域
- （2）発生時期 出穂期～糊熟期
- （3）発生程度 平年比 やや多

2 注意報発令の根拠

- （1） 斑点米カメムシ類はイネ科雑草等で世代を繰り返し、水稲が出穂すると水田内に飛来し吸汁加害するため、早期水稲栽培地域のイタリアンライグラスにおいてすくい取り調査を行った。斑点米カメムシ類の捕獲数が昨年より多く、特にクモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、アカスジカスミカメが多発傾向にある（表1・図1）。
- （2） 早期水稲栽培地域の水稲におけるすくい取り調査では、クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、アカスジカスミカメの発生が確認された（表2）。
- （3） 早期水稲栽培地域において、出穂期の早い品種に対して斑点米カメムシ類による集中加害を受ける可能性が高い。

3 防除上注意すべき事項

- （1） 出穂期に見回り畦畔雑草や水稲で成虫を見かけたら、穂揃い期に防除を行う。また、発生が多い場合は穂揃い期とその7～10日後に防除を行う。
- （2） 本虫の加害は少数でも品質に影響を与えるので（出穂期のクモヘリカメムシ密度が1～2頭/100㎡を超えると斑点米率は0.1%以上となる）、出穂期に成虫を見かけたら防除を徹底する必要がある。
- （3） カメムシ類は広範囲に移動するので、広域で一斉防除すると効果が高い。
- （4） 使用薬剤は、県または地域の防除基準に従い使用回数、使用時期を厳守して農薬の安全使用に努める（表3）。

平成15年度 早期水稻栽培地域における斑点米カメムシ類発生状況調査（すくい取り）

表1. 松島町（イタリアンライグラス）での発生状況調査

調査日	クモヘリカメムシ	ホソハラカメムシ	アカシジカスミカメ	シラホシカメムシ	ミナミアカメムシ
4/10	0	0	0	0	0
4/14	0	0.1	0	0.9	0
5/9	0	5.3	23.3	1.0	1.0
5/16	0	1.3	15.6	0	0
5/21	13.3	8.4	27.4	9.0	0
6/3	34.3	19.0	197.3	3.8	1.0

※1. 10回振り（片道）の平均値である

※2. 成幼虫の合計数を示した

表2. 松島町（水稻・出穂期～穂揃期）での発生状況調査（6月25日調査）

	クモヘリカメムシ	ホソハラカメムシ	アカシジカスミカメ
水稻1	2	1	1
水稻2	1	0	0
水稻3	1	0	0

※1. 60回振り（片道）の値である

※2. 成虫のみの捕獲であった

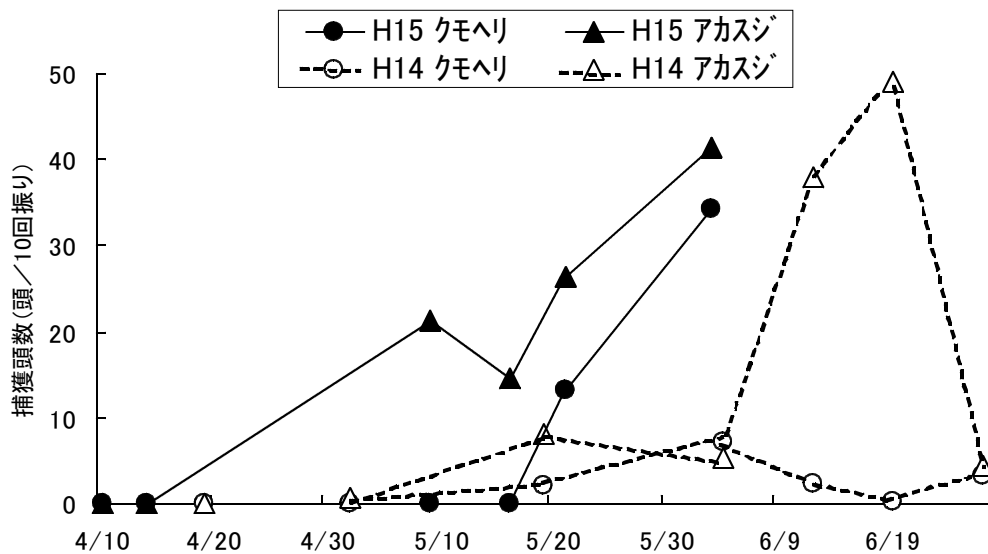


図1. 早期水稻栽培地域（松島町・イタリアンライグラス）でのクモヘリカメムシ、アカシジカスミカメのすくい取り捕獲成虫数の推移（H15・H14）

表3. イネのカメムシ類に登録のある農薬（熊本県病害虫防除基準より抜粋）

薬剤の系統等	商品名	使用濃度 (倍)	使用基準		注意事項
			使用時期 (収穫前日数)	使用回数	
合成ピレスロイド系	トレボン粉剤DL	3~4kg/10a	7日	3回以内	ミナミアカメムシに効果が劣る
	MR.ジョーカー粉剤DL	3~4kg/10a	7日	2回以内	
ネオニコチノイド系	スタークル粉剤DL	3kg/10a	7日	3回以内	クモヘリカメムシに効果が劣る
	アルハリン粉剤DL	3kg/10a	7日	3回以内	
	ベストコート粉剤DL	4kg/10a	14日	4回以内	
	ダントツ粉剤DL	4kg/10a	14日	3回以内	
	アドマイヤー粉剤DL	4kg/10a	21日	2回以内	
有機リン剤	エルザン粉剤3DL	3~4kg/10a	7日	3回以内	
	スミチン粉剤2DL	3~4kg/10a	14日	3回以内	
	スミチオン乳剤	1,000倍	21日	3回以内	
	ハイジット粉剤2DL	3~4kg/10a	21日	2回以内	

◎農薬は適正に使用しましょう！

- ・農薬は農薬取締法によって使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍率、収穫前日数、総使用回数などが定められています。ラベル等をよく読んで正しく使用するようにしましょう。
- ・現在農薬登録のないものや、使用する農作物に適用のないものは絶対に使用してはいけません。

発生予察注意報（早期水稲・斑点米カメムシ類）を発表します

水稲の斑点米カメムシ類については、近年、早期水稲栽培地域で斑点米を生じ品質を低下させるということで問題となっています。本年度のイタリアンライグラスのすくい取り調査で、斑点米カメムシ類の捕獲数が多くなっています。特に、最重要種であるクモヘリカメムシの捕獲数が多く、6月下旬の水稲（出穂～穂揃期）においても確認されました。このカメムシは、斑点米の発生能力が高いため、特に注意を要する種類です。

1 水稲での被害内容

乳熟期～糊熟期（出穂10日～20日）と呼ばれるまだ実が柔らかい時期に、カメムシの吸汁を受けその傷が変色し収穫後の玄米に斑点（不整円形の褐色の紋）が生じ、出荷の検査時に着色米ということで等級を落としたり、ひどい場合は規格外（買入対象外）扱いとなります。

着色米の混入率	1等米	1粒まで（約1000粒で）
	2等米	3粒まで（"）
	3等米	7粒まで（"）
	等外	50粒まで

2 斑点米カメムシ類の生態、及び防除

クモヘリカメムシ（年1～3回発生し成虫越冬）

1頭で1日0.11～0.50粒の斑点米を生じさせます。

成虫で越冬し、4～5月頃より活動を始め、イネ科等の雑草で世代を繰り返し稲が出穂すると飛来して吸汁加害する。

防除としては、穂揃期に防除を行う。なお、密度が高い場合は、再度その1週間～10日後に防除を行う。

参考1 過去の斑点米カメムシ類の注意報の発令状況

H12年7月4日（早期）

H11年6月21日（早期）、

H10年8月24日（水稲全般特に球磨、天草地域）、

H8年6月27日（早期）、H4（普通期）、S61（早期）

参考2 熊本県の水稲の作付け面積等（概数）

早期（4月植え） 約3,000ha

※ 天草を中心に、玉名から芦北の海岸地域に作付

全体	約42,000ha
早植（5月植え）	阿蘇、矢部に多く 約7,000ha
普通期（6月植え）	平坦地を中心に 約30,000ha
晩期水稲（7月植え）	主にたばこ、い草跡 約2,000ha

※病害虫の発生予察情報は、ホームページ（http://www.jppn.ne.jp/kumamoto）で公開していますのでご利用ください。

問い合わせ先

熊本県農業研究センター
生産環境研究所病害虫研究室
予察指導係（病害虫防除所）

担当： 樋口・前田

TEL096-248-6490

FAX096-248-6493